

会 議 録

(敬省略)

会 議	平成24年度第1回みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会 第1回食文化・産業振興WG部会
日 時	平成24年7月9日(月) 19時40分から20時45分まで
場 所	美濃加茂市生涯学習センター203会議室
出 席 者	委員9名 大矢正昭(八尋産業(株)/美濃加茂市) 山田 智(めぐみの農業協同組合/美濃加茂市) 田中 強(美濃加茂商工会議所/美濃加茂市) 小西輝幸(株小西砕石工業所/坂祝町) 小島一彦(株半布里/富加町) 加藤孝明(白扇酒造(株)/川辺町) 佐合重光(八百津町商工会/八百津町) 古田文英(白川町商工会/白川町) 安江美好(農業知識経験者/東白川村) [欠席 長谷川嘉彦(七宗町商工会/七宗町)] 事務局:美濃加茂市定住自立圏推進室 遠藤比路子 坂祝町総務課 大野泰孝 八百津町総務課 後藤 等
議 題	<ul style="list-style-type: none"> ・部会長及び副部会長の選任 ・平成23年度取り組み事業の報告 ・意見交換

事務局	司会(定住自立圏推進室遠藤比路子) 部会長及び副部会長の選任について、委員様から立候補またはご推薦をお願いします。
委員	部会長に大矢正昭委員、副部会長に小西輝幸委員にお願いしたい。 (承諾)
委員	自己紹介
事務局	平成23年度取り組み事業、地域創富力高度化調査事業として多文化共生レストラン事業とイノシシを活用した地域おこし調査事業の報告。
D委員	調査していくと、イノシシの肉は高コストであることがネックであることが分かりました。視察した伊豆では、本来農作物被害を軽減するため駆除したイノシシの肉を活用して地域の活性化を図ることを目的とするはずだが、地域で捕獲したシシ肉が少ないため輸入して提供している状況でした。肉のコストが高く安価で提供できないことも災いしている。

消費拡大を狙ってシシラボという企画から発展した美濃加茂サービスエリアで提供しているシシドデ井は大変おいしい。商品として提供するまでに多くの手間はかかると思いますが、こんにやくやゴボウなどを多く使用しコストが下がるように工夫されていました。

事務局 今年度のつながる事業で「シシ丸王国」が採択されました。シシ丸王国は、美濃加茂市商工会議所が主催したセミナーから発足した団体で、八尋産業さんとシシ肉を活用したカレー等、シシ肉の魅力をPRして出口戦略に取り組む予定です。

A委員 シシ丸がこの地域の活性化につながれば良いと思います。先ほども話があったようにシシ肉は高コストです。4,800円/kg程度するため、カレー一杯当たり900円程度の売価となります。飛騨牛より高値です。商品化にはコストを下げる必要がある。郡上では1,500円/kgで手に入るような話を聞いたことがあるがどうしているのか。

B委員 ヤミ等地方の販売方法は、食品衛生法上問題となると思います。

G委員 殺解体処理までに要する時間が早いほどおいしい肉が採れるとのことです。捕獲した近くに処理施設がないと無理なのではないでしょうか。

A委員 施設整備が必要となるが総務省からの補助はあるのでしょうか？

事務局 財源確保することは難しく、主体となる事業者も課題です。

A委員 シシ丸王国に、車を殺処分できるよう改造して捕獲現場に移動しその場で処理できるようできないか。

I委員 狩猟期以外の肉の活用方法を考える必要があります。

事務局 狩猟期以外の肉の活用方法については、本年度シシ丸王国が中部大学と共同で研究すると聞いています。シシ肉の活用について、今後は団体などに任せ、今年度はほかの事業について協議を進めたいと思います。

C委員 シシ肉の活用事業について、問題が解決されないまま終わるのはどうかと思います。一部の委員だけで進められ、情報開示がなく、どのような判断で終わりになったのかがわかりません。

I委員 郷土料理などへの活用も考えられると思います。

D委員 この事業は、民間事業者の引き受け手がいなければ進みません。施設建設を行政に頼るのは難しいと考えます。私の会社や、ここにお集まりの皆さんで共同出資して建設するのであれば可能ですが。マタギで処理した肉をその後、どこで利用するかも考える必要があります。安価に流通させようとヤミルート品を使うと衛生上問題となります。いろいろ考慮すると行政でこれ以上進めることは難しいと考えます。

A委員 シシ丸王国でシシ肉を流通させる出口ができていても入口がありません。

D委員 去年は入口も出口も無いような話だと思っていましたが、これまでよく調査したと思います。シシ肉については一度区切りをつけ、今後、新たな情報があれば提供してもらい進めれば良いのではないのでしょうか。

F委員 このWGの新たな方向性をみつける必要があると考えます。1つ提案

があり調べてもらいたい。この圏域の米、野菜、果実分類別の生産量や、地元農家の要求などです。私たち事業者には様々なネットワークがあるので、地域の生産者と私たちを結びつけるような情報・場があれば色々な事業の可能性が膨らみ、活性化につながると思います。

D委員

今日の協議はどこまで進めれば良いのでしょうか。時間もないので改めてお集まりいただき協議したいと思います。

事務局

委員の皆さんから様々なアイデアをいただき、それを行政のPTで検討するよう進めたいと考えます。次回は、ご提案をお持ち寄りいただきますようお願いいたします。

※（決定）次回8月6日（月）午後7時から第2回WG開催する。

それでは本日のWG部会協議を終了し閉会とさせていただきます。
お疲れ様でした。